

令和2年度(2020年度)
京都市立芸術大学大学院音楽研究科入学試験
西洋音楽史

以下の4つの語群から最低2つずつ、合計10となるように選択し、簡潔に説明しなさい。人物名や音楽作品名を選んだ場合は、西洋音楽史上の重要性についても触れること。解答用紙には、選んだ語群のアルファベットと番号を記すこと。

語群 A

1. ネウマ譜
2. グイード・ダレッツォ
3. 定旋律
4. アルス・ノーヴァ
5. 通模倣様式
6. ジョスカン・デプレ

語群 B

7. コンチェルト・グロッソ
8. カメラータ
9. 《魔笛》
10. ジャン＝バティスト・リュリ
11. オペラ・ブッフア
12. ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル

語群 C

13. ヴェリスモ
14. モーリス・ラヴェル
15. エドゥアルト・ハンスリック
16. 交響詩
17. 《子どもの不思議な角笛》
18. グラントペラ (グラント・オペラ)

語群 D

19. ベラ・バルトーク
20. 《春の祭典》
21. チャンス・オペレーション
22. 十二音技法
23. ミュジック・コンクレート
24. ミニマル・ミュージック

令和2年度(2020年度)

京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程 共通試験問題

日本音楽史

1. 次の各文の(ア)から(ノ)に当てはまる語を、語群から選んで答えなさい。

- (1) 能、(ア)、(イ)の三つは、日本の三大演劇といわれる。これらは楽劇とも呼ばれ、音楽との不可分な結びつきに特色がある。
能は、面をつけた役者が、語り、(ウ)と称する斉唱コーラス、(エ)と称する四種の楽器((オ)、(カ)、大鼓、(キ))による囃子にのって舞う音楽仮面劇である。
(ア)は、大坂で生まれた(ク)節という(ケ)の語りと太棹三味線によって物語が展開する音楽人形劇である。
(イ)は、役者によるセリフ、演技、舞踊と、演奏者による音楽(歌、(ケ)、三味線、囃子)で構成される歌舞劇である。その音楽は、細棹三味線が用いられる(コ)のほか、(ア)でも用いられる(ク)節、中棹三味線が用いられる(サ)節、(シ)節など、様々な種類がある。
- (2) 現在行われている大陸系の楽舞には、中国から伝来した(ス)と、朝鮮半島から伝来した(セ)がある。(ス)を左方、(セ)を右方と呼び、楽曲、楽器の編成、装束などで区別される。また、演奏形態でいえば、舞をともなう舞楽と、平安貴族の遊び(御遊)として生まれた器楽合奏の(ソ)とにわかれる。
- (3) 小泉文夫は、民謡などの分析によって、日本音楽のリズム原理を二つの側面から捉えて、(タ)様式と(チ)様式という名称で分類した。前者は、(ツ)のない自由なリズムで歌い、メリスマ的で音域が広く、旋律が変動的である。後者は、(ツ)的でリズムが明確、旋律が固定的である。
- (4) 江戸時代から昭和時代なかごろまでに、日本で最も多くの人々に演奏されてきたと考えられる楽器は、(テ)本の弦と胴の間に(ト)と呼ばれる可動式のブリッジを立て(ナ)を用いて弾く(ニ)という楽器と、三本の弦と胴の間に(ヌ)と呼ばれるブリッジを立て(ネ)を用いて弾く(ノ)という楽器である。

【語群】

声明、管絃、神楽、雅楽、催馬楽、高麗楽、唐楽、伎楽、文楽、歌舞伎、浄瑠璃、
義太夫、常磐津、清元、浪花、大薩摩、追分、長唄、小唄、端歌、地歌、地謡、万歳、
三番叟、木遣り、八木節、拍節、四拍子、八拍子、箏、琵琶、胡弓、三味線、能管、
龍笛、篠笛、尺八、小鼓、太鼓、三ノ鼓、ササラ、駒、箏柱（ことじ）、
箏爪（ことづめ）、弓、撥（ばち）、13、17

2. 次の語句の中から、4つを選び、それぞれの内容を簡潔に説明しなさい。自身の経験
や考えを簡略に書き添えてもよい。

和讃、神楽、笙、箏、平家琵琶、尺八、琴（きん）、胡弓、三曲合奏、狂言、
夢幻能、弱吟、黒御簾音楽、新日本音楽、木遣り、お水取り、当道、序破急、
唱歌（しょうが）、五声、テトラコルド、陰音階、世阿弥、八橋検校、普化宗、
都山流、越天楽、六段の調、那須与一、紅葉狩、道成寺

3. 伝統的な日本音楽は、歴史的に変化してきた。その具体例をひとつ取りあげて記述せ
よ。また、現代においてどのように展開していくべきか、自分の考えを述べよ。